平成２８年１２月２日

嬉野市議会
　議長　田口　好秋　様

産業建設常任委員会
委員長　大島　恒典

産業建設常任委員会報告書

平成 28 年 9 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第 107 条の規定により報告する。

付託事件名　　茶交流館について

調査の目的

お茶の交流館施設の今後のありかたについては観光と一体化した集客が必要であると考え、堺市においては平成２６年度に文化観光拠点としてオープンした「さかい利晶の杜」、お茶の加工施設と道の駅を併設した白川茶で知られる岐阜県白川町と東白川村の施設の視察を行うこととした。

調査の概要

調査日・場所　　１１月１６日　　さかい利晶の杜
堺市堺区宿院町

施設の概要

大阪府堺市が文化観光拠点整備事業として開館した施設であり、館内には堺が生誕の地でもある千利休や与謝野晶子の展示室、茶の湯の体験施設、観光案内展示室が設けられており、この施設に来れば堺の歴史や文化に触れられる内容となっている。また館外ではあるが同じ敷地内に来訪者サービス施設整備事業として、公募型プロポーザル方式により「梅の花」や「スターバックスコーヒー」が出店されており、集客を意識した施設となっている。

調査日・場所　　１１月１７日　　道の駅　美濃白川ピアチェーレ
飛騨美濃特産名人の館「茶・ちゃ・チャ」
岐阜県加茂郡白川町河東

施設の概要

飛騨・美濃特産名人の館「茶・ちゃ・チャ」は、平成１７年度に国の新山村振興等農林漁業特別対策事業を活用しオープンしている。目的としては伝統ある手もみ製茶技法を伝承するとともに、高齢者の生きがい発揮、女性の能力発揮の推進を図り、もって本町の茶業振興に資するためとしており年に数回の手もみ体験や製茶技術競技会等が開催されている。

道の駅「美濃白川・ピアチェーレ」については平成２年度から５年度にかけて、農畜産物加工、展示販売施設を平成２４年度には温泉施設を国の事業を活用して建物４棟、温泉施設１棟を建設されている。年間来場者数はピアチェーレ、道の温泉駅を含め２４万７千人ほどで売り上げは２億３千万となっている。近年高速道路が開通したことにより来場者数の減少に苦慮しているとのことである。

調査日・場所　　１１月１８日　　東白川村役場
新世紀工房　道の駅　茶の里東白川

東白川村は人口２，３００人ほどの農林業を産業とした村である。２０年ほど前から今後の農業に危機感を持ち「東白川村農業再編ビジョン企画書」を基に村民一体となった取り組みが進められており、現在では将来にわたって農村機能を維持していくために農業をサポートする異業種連携の核となる有限会社新世紀工房をたちあげ、総合交流ターミナルとして様々な活動を展開しておられ、全国的に課題の多い中山間地農業の一つのモデルケースとして注目すべき取り組みである。

別紙資料　　有限会社　新世紀工房組織図

委員会の意見

　今回建設する茶の交流館のデザインや展示内容について、プロデュースを行う会社が手掛けた「さかい利晶の杜」の視察を行った。堺市は仁徳天皇陵古墳をはじめ数々の歴史的、文化的遺産がある街であり、館内は堺市の観光ボランティアの方に案内されて１時間ほどかかる大変ボリュームがあり見ごたえのある施設となっており、非常にうらやましいと感じたところである。

　白川町、東白川村は白川茶を特産品とした農業の町である。平成の大合併では美濃加茂市を中心とした合併協議が進んでいたが、中心市である美濃加茂市の突然の離脱により合併は頓挫したとのことであり、今後の行政運営を非常に危惧しておられると感じたところである。

今回、両町村にはお茶の加工施設を併設した道の駅ということで視察を行った。白川町では道の駅にお茶の仕上げ工場、ハムの加工施設、国道を隔てて手もみ茶の研修施設がある。同施設内に２つの加工場があるが直売所との連携は希薄に感じられた。加工工場を活かした来場者に体験できる取り組みも集客には必要ではないかと感じたところである。

　東白川村は村長以下村の将来に危機感を持って取り組んでおられ、村営の会社といってもいい新世紀工房の取り組みは、今後の交流館のありかたについて参考になると考える。

交流館については現在の計画において「見せる」ものが少ないように感じる。国道３４号線も高速道路の開通により交通量も減少しており、飛び込みで来られる客は期待できないと感じる。目的を持って来館いただくためには、通年体験でき、お茶の里として体感できる取り組みを茶の研修センター（嬉茶楽館）との連携も含め考えていくべきと考える。多額の資金をつぎ込む施設であり、今後の嬉野の観光と茶業振興に結び付けていく施設とする事が重要課題である。